

西福寺だより

令和6年3月31日
第8号

発行
西福寺
塩尻市下西条
TEL:0263-52-0104

住職挨拶

本年もよろしくお願い申し上げます。

まず初めに本年の一月一日に能登地方を震源とする令和六年能登半島地震によって命を落とされた方々へご冥福をお祈り申しあげると共に被災された地域、皆様に衷心よりお見舞い申しあげます。西福寺檀信徒の方々の中にも被災地にご家族、ご親戚、ご縁をいただいている方々もおられる事と存じます、被災地の一刻も早い復興と安寧を心より祈念いたします。

能登地方には現在、横浜鶴見区にある大本山總持寺が明治三十一年の火災で伽藍が焼失するまで本山として多くの修行僧を抱え曹洞宗のみ教えを全国に伝えていました、現在も總持寺祖院として大変に立派な伽藍を有しておりますがこの度の震災で甚大な被害を受けております。

曹洞宗にとっても能登は極めて大切な場所であり悲しみに堪えま

せん、私が大切にしている言葉の中に「もし難値難遇のことあるとも、必ず和合和睦の思いを生ずるべし」というお示しが御座います。

この言葉は總持寺を開かれた瑩山禪師様が『尽未來際置文』と称される私たちに託された書き置きの一説であり、困難なこと悲しみ苦悩に直面した時には、共に支え合いながら生きていくことをお示し下さっています。

言うは易く行うは難しの言葉通り理解はしていても私自身常にこの言葉を胸に置いておりますが、どこまで実行出来ているか分かりません、しかしながらこのお示しが皆様方の心に届き悲しみに寄り添い苦難を我がことと受け止め一緒に前へ進んでいけるよう願っております。

最後になりましたが檀信徒各家、皆様方のご繁栄とご健康を祈念申し上げます。

寶松山 西福寺

住職 青山 裕文 合掌



總持寺祖院



經 藏



大祖堂



山 門



写真で綴る西福寺



塩尻東小学校3年生の方々が授業の一環でお寺に遊びに来て下さいました。



写真提供 市民タイムス

四年ぶりの開催となった達磨供養 来年は1月11日を予定しております。本年の達磨を一年大切にして頂き来年又お寺に来て新しい達磨を受け取って頂きたいと存じます。



昨年末にペット動物の納骨堂を建立致しました、皆様の大切なペットを西福寺境内に納骨し、供養させて頂きます。

詳しくはお問い合わせ下さい。



信州筑摩三十三カ所観音霊場の例祭です、昨年は松本市牛伏寺様で。西福寺は二十番の札所です、また西福寺にて二十四番の高出にある慈恩寺の御朱印もお預かりしています。

令和六年度 行事予定

❖ 八月十日 午後二時より

大施食会・世話人会

どなた様もご参列頂けます。
新盆の家には改めてご連絡申しあげます。

❖ 十二月八日 午後三時より

秋葉三尺坊例祭・世話人会

西福寺総代・世話人・関係者にて

❖ 十二月三十一日 十一時四十五分頃より

二年参り

新春祈禱と除夜の鐘。

令和七年

❖ 一月十一日(土) 午後二時より

だるま供養・世話人新年会



明治の文豪と西福寺

山を遠景にした庭に池を掘り、石を畳んで木や灯籠を配置し、流れの音も静かで、夕方になると魚をうかがいに来る川蟬の羽影が差したりして、山寺という感じが深い。ーと描写された山寺こそ、何

在ろう西福寺の事です。そして、この一節を書いた小説家が明治の文豪、徳田秋声に他なりません。秋声は泉鏡花、室生犀星と共に金沢の三文豪と称されました。ただ残念ながら他の二人に比べ知られてはいませんが、川端康成は「日本の小説は源氏にはじまって西鶴に飛び、西鶴から秋声に飛ぶ」と表現し、「近代日本最高の小説家」評価しています。

ではどうして秋声は西福寺の事を書いているのでしょうか。もう一度、秋声の一節を紹介致します。「桔梗原の高原にあるお寺で行われる義弟の上堂式に参列するため、私は或夜おそく、妻と一緒に市中の或停車場から出発して、久振で山国の旅に登った」秋声のこ

こでいう義弟の上堂式とは、私の祖父にあたる二十三世英洲方丈の晋山式の事を指します。つまり秋声の妻（はま）は、英洲方丈の実姉にあたります。二人は辰野町小野の小澤家に五人兄弟として生まれました。長女はまと三男英洲方丈とは十歳以上離れた姉弟でした。一家が故有つて上京するにあたっては「泣き立てる背中の子」として英洲方丈が小説『足跡』に登場します。更には「義弟は駒澤の大学を出ており、学問の成績も優秀で、かかる大きな寺院の住職としての手腕も年の割にはあるのだが」云々と、しばしば好感を持つて小説に描かれています。取り分け短編小説の『花咲く頃』には秋声夫婦が英洲方丈の晋山式に参列した様子が、こと細かに描写されています。

妻はまは大正十五年に四十六歳で亡くなりますが、以後も秋声は子供たちを連れて西福寺を訪れていますし、英洲方丈も秋声の自宅

をしばしば訪問していた様です。さる令和四年十一月、金沢にある徳田秋声記念館で、「足跡―書き尽くされた妻の生涯」と題して企画展が開催されました。この『足跡』は、明治四十三年七月から十一月まで読売新聞に全八十六回掲載された長編小説です。秋声の妻、小澤はまの半生を題材に、主人公（お庄）一家の上京と、彼女の成長が描かれています。この企画展のパンフレットに紹介されて

いる、はまの写真を始めて見た時、直ぐに姉弟であるかと理解出来ました。それ程二人は似ていました。英洲方丈を知っている方なら納得されることと思います。私は、これをご縁に徳田秋声記念館へ足を運ぶことが多くなりました。皆様方も金沢に出かける機会がありましたら是非、記念館にお立ち寄り下さい。

東堂 青山 文規記

足跡

あしあと

書き尽くされた妻の生涯

令和4年11月12日(土)ー
令和5年3月12日(日)

(火曜定休(祝日の場合は翌平日)、12月29日(水)ー1月3日(火)休館)

開館：倉敷市にある秋声の妻はま（徳田秋声）
特別協力：尾島良彦、千野裕仁、西尾善、小澤家、徳田家（徳田不詳、徳田裕）

Tokuda Shusei Kinenkan Museum
徳田秋声記念館

〒920-0831 石川県金沢市東山1丁目19番1号 TEL.076-251-4300 FAX.076-251-4301
開館時間 9時30分ー17時(入館は16時30分まで)
観覧料 一般 310円・65歳以上 210円・高校生以下無料・団体(20名以上)260円

<https://www.kanazawa-museum.jp/ahusei/>

企画展でのパンフレット

西福寺護持会 令和5年度収支決算報告書

自 令和5年1月1日
至 令和5年12月31日

		支 出 の 部			
		事 務 費		通 信 費	
収入総額	12,277,133 円		260,393	通信費	12,600
支出総額	8,103,191 円			印刷代	247,793
差引残高	4,173,942 円	会 議 費	268,369	会議費	268,369
		法 要 (祭 典) 費	831,855	お札他	63,250
				法 礼	290,765
				塔婆代	477,840
		教 化 (布 教) 費	709,613	施本代他	709,613
				護持会研修費	
		檀 信 徒 等 接 待 費	633,291	供物代	14,713
				旅費食料費	618,578
		宗 派 課 金	1,884,710	宗費教区負担金	1,872,310
				公租公課	12,400
		管 理 費	1,640,000	庭園手入費	1,640,000
				境内整備費	
		営 繕 修 理 費	220,000	修理一式	220,000
		水 道 光 熱 費	664,187	水道料	526,840
				電気料	108,691
				プロパン代	28,656
		保 険 料	983,733	火災保険料	983,733
				建物共済	
		雑 費	7,040	雑費	7,040
合 計	12,277,133	合 計	8,103,191		

収 入 の 部	
前年度繰越金	4,505,095
大般若会回向料	3,739,000
大施食会回向料	4,033,000
宝松閣使用料	0
雑 収 入	38
合 計	12,277,133

上記監査の結果正確である事を認めます。

令和6年3月1日

監事

大 村 宗 一

監事

米 窪 潤 司

監事

小 松 み さ 子



西福寺護持会 令和6年度収支予算書

自 令和6年1月1日
至 令和6年12月31日

収入の部		支出の部					
		事務費	会議費	法要(祭典)費	教化(布教)費		
収入総額	11,974,000 円	300,000	300,000	900,000	300,000	通信費	50,000
支出総額	11,974,000 円					印刷代	250,000
差引残高	0 円					会議費	300,000
						お札他	100,000
						法礼	300,000
						塔婆代	500,000
						施本代他	250,000
前年度繰越金	4,173,942					護持会研修費	50,000
大般若会回向料	3,800,000	檀信徒等接待費	800,000			供物代	50,000
大施食会回向料	4,000,000					旅費食料費	750,000
宝松閣使用料	0	宗派課金	2,500,000			宗費教区負担金	2,450,000
預金利子	58					公租公課	50,000
		管理費	2,500,000			庭園手入費	2,300,000
						境内整備費	200,000
		営繕修理費	400,000			修理一式	400,000
		水道光熱費	1,000,000			水道料	600,000
						電気料	200,000
						プロパン代	200,000
		保険料	1,000,000			火災保険料	1,000,000
						建物共済	0
		予備費	1,974,000				
合計	11,974,000	合計	11,974,000				



月に一度の練習と大般若法要や大施食法要でお唱え致します。
また、近隣のお寺の梅花講員さんとの合同練習や全国大会等も御座います。



西福寺梅花講員募集中

梅花流詠讚歌とは鈴鉦を用いてお唱えをする御詠歌です。
お釈迦様や両祖様（道元禅師・瑩山禅師）のみ教えの歌詞を
優しいメロデーでお唱えをします。
女性のみならず男性の方も大歓迎です!!

曹洞宗管長 石附周行禅師様は梅花流
詠讚歌を通して正しい信仰に生き、仲良
い暮らしをし、明るい世の中を作る「お
誓い」の誓願を叶え、千変万化する日常
にみ仏の教えを生かす大切さを説かれて
おります。

みなさんのご参加お待ちし
ております。



全国大会での様子

